



高原の風だより

2019（令和元）年5月 発行 <第16号>

美しい景観は地域の大きな宝

～支障木伐採や美化活動などさらに力～

少子高齢化による人口減少が大きな問題になっているが、特効薬のような決め手はない。地域の特性を生かし、地道に取り組むよりほかに方法はないのかも知れない。

開田高原の地域特性はやはり雄大な御嶽山と高原の美しい景観だ。これらは地域の大きな資源であり宝であるといっても過言ではない。

道路の美化活動や支障木の伐採など美しい景観づくりを進めることが地域の活力になり来訪者を呼び込むことにつながるのではないかと思う。



国道 361 号沿いの支障木伐採を行う倶楽部のメンバー

高原の玄関口をより美しく ～国道 361 号沿いの支障木伐採作業～

毎年春から秋にかけて開田高原倶楽部では3回程度、国道 361 号沿いの美化活動を実施している。とりわけ力を入れているのが高原の玄関口に当たる新地蔵トンネルを出てから 800m 余りの区間。道路の両側に自生する高原のシンボル・シラカバが、来訪者に強烈な好印象を与えて迎える。この美しい景観に惹かれて移住した人もいるほどだ。

同倶楽部では 10 人余りが参加し5月18日、令和になって最初の美化活動として国道 361 号沿いで支障木の伐採作業を実施した。

アダプトシステム協定に調印～国道沿いの美化活動に弾み～

開田高原倶楽部では10年以上にわたり国道沿いの草刈りや支障木伐採、ごみ拾いなど美化活動を実施しているが昨年8月、アダプトシステム（信州ふるさとの道ふれあい事業）の協定に調印した。木曾合庁で行われた調



国道の草取りを行う学生（昨年）

印式では原久仁男木曾町長と米倉剛木曾建設事務所長、そして開田高原倶楽部の坂口和芳会長の3者が協定書に署名。末川西の交差点から馬橋まで約 2.1km 区間について、美化活動を行い良好な景観の維持に努めることになっている。

るさとの道ふれあい事業（アダプトシステム）
協定調印式
高原倶楽部・木曾町・長野県木曾建設事務所



協定後に記念撮影（左から原町長、坂口会長、米倉所長）

学生と一緒に美化活動 ～関係人口の拡大にも期待～

地域づくりについて開田高原倶楽部では、東京経済大学の羽貝正美教授に大変お世話になっているが昨年秋、ゼミの学生ら 17 人が来町し、倶楽部の会員と一緒に国道の美化活動に汗を流した。夜はバーベキューをして交流を深めた。同大学の美化活動は今年も行われる予定で関係人口（地域の人々と多様に関わる人々）の拡大も期待されている。

～ 一層の工夫や努力が必要では ～ なぜ少ない 木曾町のふるさと納税

財政運営等で重要なふるさと納税

～地場産業の振興にも寄与～



ふるさと納税は応援したい県や市町村に寄付すると自己負担の2千円を除いた額が地方税の住民税などから差し引かれる制度で2008年に始まった。高価な返礼品を用意した自治体に寄付が集まる傾向にあり、自治体も返礼品の豪華さを競

木曾町のふるさと納税のポータルサイト(ホームページより)

うようになったため

総務省は昨年、寄付額の3割を超える品物や換金しやすい家電商品などを贈るのを自粛するように自治体に求めた。さらに今年3月には返礼品を「調達額が寄付額の30%以下の地場産品」「自治体の区域内で生産された物品やサービス」と規定し、ルールを守らない自治体は制度の対象から外すという改正地方税法が成立した。

過度な返礼品競争はもちろん好ましくないが、決められたルールの中でより多くの寄付金を集めることは、自治体の財政運営面からもひじょうに大事なことだ。また、地場産品の振興という観点からも積極的に取り組むべきものとする。

県内町村1位は小谷村 24億2400万円

～木曾町は2300万円～

平成29(2017)年度の寄付総額は全国で約3653億円といわれている。そこで総務省のポータルサイト(インターネット)で県内町村の状況を調べてみて驚いた。木曾町が余りに少ない!

木曾町への納税額は、2282万6千円。この金額は県内の58町村の中では28番目ということで、ほぼ真ん中という順位であるが、他町村の状況やわが町の人口や財政規模などから考えると余りにも少な過ぎるを感じる。

ちなみに県内町村の1位は小谷村で24億2400万円余り、2位は豊丘村で6億2100万円、3位が高森町で5億2830万円、4位軽井沢町が3億6千万円、5位は喬木村の2億2200万円、6位が白馬村の2億1100万円と続き、17位の辰野町までが何と1億円を超えている。

余りにも少ない木曾町の納税額

～根羽村や生坂村と同レベル～

わが町と納税額が似通った自治体はどこなのか。下伊那郡根羽村と東筑摩郡生坂村だ。根羽村は町村の順位が30番目で納税額が、わが町よりわずかに少ない1970万円。人口わずか950人、一昨年度の普通会計の歳入決算額は20億円ほどの小さな村だ。

また、生坂村は順位が31番目で納税額が、わが町よりわずかに少ない1910万円。人口1800人、歳入決算額は24億円程のこちらも小さな村。このように根羽村や生坂村の奮闘ぶりを見ると人口1万1500人、予算規模100億円超の木曾町の納税額は余りにも少な過ぎると思ってしまう。



生坂村の返礼品の米(HPより)

なぜ木曾町は少ないのか?

～ポイント制などに分かりづらさ～

各自治体とも納税額を増やすために、さまざまな努力や工夫をしていて特徴がある。木曾町の特徴の一つがポイント制。寄付額に応じてポイントが付与され、そのポイントをためておいて高価な品物をもろうこと

も可能。寄付をした時点で御礼の品を決める必要がないので、とりあえずポイントをもらっておいて後からじっくり欲しい物を選ぶこともできる。

木曾町の場合には、2千円の寄付額で600ポイント、2万円で6000ポイント、3万円で9000ポイントとなっている。それぞれの返礼品には、寄付額がポイントで示されているが、自分がいくら寄付をすればどのくらいポイントがついてその返礼品をもらえるのか、計算しないとすぐには分からない。

それではポイント制を採用している他の自治体では、どうしているのだろうか。実際にポイント制で実績を上げている自治体では、返礼品の写真の下に交換ポイントとともに参考寄付額として金額を明記することでとても分かり易くなっている。わが町でもこのような分かり易さと工夫が必要だと思う。



木曾町の返礼品の木工品(HPより)

選択肢を増やし内容充実を

～上位の自治体は種類が豊富～

納税額上位の自治体は、そのサイトを見ると何か共通点があるように感じられる。その一つが返礼品の種類が多く、選択肢が豊富だということ。木曾町が9カテゴリー(分類)で70件余りの数に対して、億単位の納税実績のある某町は16のカテゴリーがあり440件余りと選択肢が多い。

わが町の場合、漆器などの木工製品のカテゴリーは充実しているが、そのほかはボリューム的に少ない気がする。わが町には地場産品も豊富にあり、工夫次第でまだまだいくらでも増やすことができるのではないかと。返礼品の選択肢を増やし内容の充実を図ることが肝要だ。

納税額増やす工夫と努力を

～大手納税サイトの活用も～

納税額を増やすことはそう容易なことではない。さまざまな工夫やアイデアが必要だ。情報化の進展の中で近年は、SNSが大きな役割を担っている。

木曾町の納税サイトを見るとどうも分かりづらだけでなく迫力に欠ける気がする。やはり他の自治体のように「ふるさとチョイス」や「ふるなび」「さとふる」など民間のふるさと納税サイトを有効に活用することも必要ではないかと思う。せめて1億円を目標に積極的に取り組んでいただきたいものだ。

順位	町村名	金額(千円)	順位	町村名	金額(千円)
1	小谷村	2,424,073	31	生坂村	19,087
2	豊丘村	621,284	32	下條村	18,697
3	高森町	528,294	33	小海町	16,522
4	軽井沢町	360,771	34	高山村	15,940
5	喬木村	222,318	35	小川村	13,682
6	白馬村	211,175	36	青木村	11,595
7	阿南町	201,675	37	信濃町	11,126
8	小布施町	185,422	38	麻績村	10,925
9	山ノ内町	144,965	39	木祖村	9,959
10	富士見町	141,806	40	原村	8,720
11	南箕輪村	135,690	41	南木曾町	7,845
12	栄村	130,676	42	佐久穂町	7,740
13	宮田村	129,630	43	天龍村	7,622
14	野沢温泉村	125,439	44	王滝村	6,643
15	飯島町	106,564	45	泰阜村	6,625
16	立科町	104,923	46	朝日村	6,300
17	辰野町	100,590	47	上松町	6,032
18	飯綱町	91,540	48	大鹿村	5,320
19	御代田町	64,285	49	売木村	4,904
20	下諏訪町	55,878	50	長和町	3,516
21	箕輪町	49,139	51	南牧村	2,475
22	坂城町	45,588	52	北相木村	1,405
23	松川村	42,935	53	山形村	1,130
24	松川町	41,637	54	平谷村	1,045
25	木島平村	34,904	55	南相木村	500
26	阿智村	25,915	56	中川村	310
27	筑北村	25,896	57	川上村	270
28	木曾町	22,826	58	大桑村	170
29	池田町	20,500			
30	根羽村	19,719			

資料:総務省ふるさと納税ポータルサイト



このコーナーでは高齢にもかかわらず今なお元気に仕事をしている人、自分の趣味に専念している人など元気あふれるお年寄りを紹介しています。今回は木曾町日義の岩間圭子さんを紹介します。

光が入った時の微妙な色合いが魅力 ～スタンドグラスで多くの作品～

昭和 42 年に松本から木曾へ嫁いだ岩間さん。以前は福島旭町で「関所の宿」という民宿を営んでいました。仕事でガラス食器などを扱う中、ガラスの持つ美しさに魅力を感じていました。



そんなある日、腰痛の治療で松本へ行った際、たまたま通り過ぎりの薬局でスタンド 岩間 圭子さん

グラス教室のチラシを目にし、すぐさまその足で話を伺い生徒になることを決めました。教室は週 1 回開かれ、岩間さんは半年間で 20 回余り通いました。そこで直線や曲線のガラスカットの方法や切り口をルーター（彫刻工具）で磨いて滑らかにすること、切り口にコパテープ（銅テープ）を巻くこと、パーツ（部品）をはんだ付けして形にすることなどスタンドグラス作りの基本をマスターしました。



照明スタンド

平成 10 年には現在の場所へ食事処「柿の木」をオープン。店内の照明器具にも岩間さんのスタンドグラスがたくさん使われています。そんな店内の作品を見た別荘のお客さんから「ぜひ教えて欲しい」という要望などを受けて平成 12 年、自宅に「ガラス工房圭子」を立ち上げ、月 1～2 回程度の教室も始めました。一時休んでいた時期もありましたが、最近少しずつ始めていて現在、生徒は中津や塩尻など郡外を中心に 5 名ほどいます。「光が入ると微妙な色合いになる」とガラスの美しさや魅力を語る岩間さん。その手掛ける作品は幅広く照明スタンドをはじめ廊下などで足元を照らすフットライト、四角いパネルのスタンドグラス、トンボ玉のアクセサリー（ブローチ、ピアス、ペンダント）等など、今までに数え切れないほど作ってきました。「好きなことに没頭していると腰痛や足の痛みも忘れる」と話す岩間さん。これからも作品を作り続けていくつもりです。



さまざまなフットライト

私の本棚

『寝る前5分で読める 心がスーッと軽くなるいい話』

(志賀内泰弘著・文庫ざんが堂)

名古屋在住の作家・小説家の志賀内泰弘先生は、思いやりでいっぱいのお世の中を作ろうと、思わず人に話したくなるような感動的な「いい話」を探して東奔西走中。そんな先生から新著『寝る前5分で読める心がスーッと軽くなるいい話』を送っていただきました。

「100 日間の手紙」や「清流の町の中学生」「義足のランナー」など日本中から集めた本当にあった 40 のいい話が紹介されています。一日の終わりに幸せな気持ちをくれる、まさに心がスーッと軽くなるいい話がいっぱいです。ぜひ多くの方々に読んでいただきたいと思います。



編集後記

令和が始まりました。振り返れば平成時代は、日本各地で地震や噴火、豪雨など自然災害が頻発しました。御嶽山の噴火でも多くの尊い命が失われ、今なお 5 名が行方不明のままです。新たな令和の時代、町にとっても皆様にとっても平穏で災害のない実り多い年になりますように。



編集・発行者： 大目 富美雄 (おおめ ふみお)

〒397-0301 長野県木曾郡木曾町開田高原末川 5190 番地

電話& FAX 0264-42-3661 携帯 090-2526-7156

E-mail info@ome-fumio.com